

# 学び舎ユネスコ News no.11

2017年4月発行

【発行】 学び舎江戸東京ユネスコクラブ

事務所：〒187-0032 小平市小川町 1-904-56



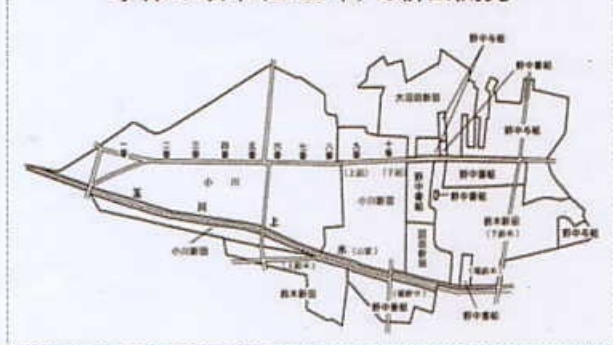
## 「第10回学び舎ユネスコ教養文化講座」を開催

<http://www.unesco.or.jp/manabiya/>

E-mail: [manabiya@unesco.or.jp](mailto:manabiya@unesco.or.jp)

2月18日(土)午後1時半より小平市中央公民館において「第10回学び舎ユネスコ教養文化講座」を開催しました。今回は、私たち学び舎ユネスコなど、17団体6個人で構成する「玉川上水ネット」が取り組む「玉川上水・分水網の保全活用プロジェクト」が、日本ユネスコ協会連盟の「プロジェクト未来遺産 2016」に登録された(昨年12月7日)直後の記念講座となりました。

### 享保の改革(1722年)で新田開発



### 第1部「プロジェクト未来遺産登録までの歩み」

学び舎ユネスコの一員であり、玉川上水ネットの事務局長でもある鈴木利博氏から『日本ユネスコ協会連盟が展開する未来遺産運動とは、100年後の子どもたちに長い歴史と伝統のもとで豊かに培われてきた、地域の文化・自然遺産を伝える運動です。今回登録された「玉川上水・分水網の保全活用プロジェクト」は、その活動内容と将来への持続性が評価されたものと考えています。』など解説がありました。

第2部の「玉川上水と砂川用水・小平用水の歴史」の講師の柴代表は立川市砂川に在住で、長年に亘り近郊都市農業の存続に尽力され、また「玉川上水の自然保護を考える会」を設立。大量のゴミ堆積で汚染した砂川地域を流れる玉川上水の水路内や緑道等を近隣住民とともに清掃。ホテルや草花を復活させた実績により「ふるさとづくり賞主催者賞」を受賞されています。

講演では、『玉川上水から同時期に分水された砂川用水と小川用水が給水網の役割を果たし、武蔵野台地の開発を可能にした。特に砂川地域の発展が小川地域発展の先駆けとなったのは、玉川上水開削より50年も前から古残堀川流域沿いの開発実績があったからで、砂川村が小川村の兄貴分にあたる。用水路網を生かした養蚕と桑苗の生産を大きな収入源とした。』

今後の課題としては「プロジェクト未来遺産 2016」に登録された「玉川上水・分水網の保全活用プロジェクト」を新たに日本遺産登録を目指した活動のための活用計画づくりを推進したい。』など述べられて閉会となりました。

私たち学び舎ユネスコも、今回の未来遺産登録を契機として小平分水網にかかる活動のすそ野を広げ、より活発化してまいりますので今後ともよろしく願いいたします。



柴 俊男氏

玉川上水ネット代表

### 「総会及び記念講演会」のお知らせ

2017年6月11日(日) 13:30～ 小平市小川公民館 2階 ホール

「日本から世界へと広まった民間ユネスコ運動。未来に向かって、私たちの役割」

講師：小暮 強志氏(こぐれ つよし)

(日本ユネスコ協会連盟評議員・青年活動部会員)